

北海道感染症対策連絡本部 第2回本部会議 記録

日 時／令和5年5月18日（木）

15：30～15：43

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道感染症対策連絡本部の第2回本部会議を開催します。

それでは、5類移行の状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明をお願いいたします。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

それでは、資料1をご覧ください。

今月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、「5類感染症」に変更されて、今日で10日余りが経過したところでございます。これまでの対応状況について、ご説明いたします。

まず、スライド2をご覧ください。5類移行への対応についてです。

まず、医療提供体制の状況ですけれども、現在、外来対応は、これまで対応いただいております医療機関に、引き続きの対応をお願いいたしますほか、新たな医療機関の増に向けて、医療関係団体の皆様との連携の下、移行前からコロナの診療実績のある医療機関を中心に働きかけをしてきているところでございます。スライドの大きくく弧にありますが、外来対応医療機関数は、医療機関や関係団体のご協力もございまして、昨日時点ですが、1,365カ所と、194カ所増加をしているところでございます。

また、入院医療では、これまで保健所を中心に行ってまいりました入院調整ですが、医療機関の間での調整とされまして、各地域で、医療機関や関係団体の皆様による協議の場などで、空床状況や調整窓口についてご確認をいただくなど、入院調整の体制構築を進めてきている中、医療機関の間での入院調整が困難な場合には、必要に応じまして保健所が調整を行うなどしております。そうした中では、現在、どの地域でも、大きな混乱は生じていないものと伺ってございます。総じて、外来対応や入院調整など、地域の医療提供体制は、5類移行への対応が着実に進んでいる状況にあると考えてございます。

次に、関係団体や事業者の方々への対応でございますが、これまでの3年3か月にわたる新型コロナウイルス感染症への対応に係るご協力につきまして、道医師会や道薬剤師会など、2,400を超える新型コロナ対応にご尽力をいただいた団体の皆様などに、道として感謝の意をお伝えいたしますとともに、今後における新たな感染症危機への備えにつきましても、ご協力をいただきますよう、依頼してまいります。

次に、スライド3です。患者発生動向でございます。

5類移行に伴いまして、患者発生の動向は、感染症法等の関係法令の下で、季節性インフルエンザと同様に定点把握による公表となりまして、具体的には、これまで毎日公表してきた取扱いを、毎週木曜日に前の週の月曜日から日曜日までの定点医療機関当たりの患者数を、全道及び30カ所の保健所単位で公表し、金曜日には、道のホームページで公開してまいります。

なお、参考までに、スライド3のグラフにございますとおり、昨年10月から、本年5月

7日までの全数把握による人口10万人当たりの新規感染者数と、定点把握ベースで再算定をしまして、定点医療機関当たりの患者数等を合わせ見ますと、定点把握でも、感染状況としましては、概ね同様のトレンドが反映されることが見て取れるところでございます。

次に、スライド4です。

先程の考え方や取扱いの下ですが、本日、5類移行後の最初の公表となりますが、5月8日から14日までの第19週の定点当たりの患者数は、表の右側、太枠のとおりですが、4.36となりまして、ゴールデンウィーク中で、多くの医療機関が休診をしていた前週（5月1日～7日）と比較しますと、患者数は増加はしておりますものの、4月中旬から下旬の各週との比較では、概ね同程度の水準となっております。また、参考として、その下段に、全道の10万人当たりの新規感染者数を掲載しておりますが、過去4週間の状況を見ますと、現時点では、概ね10万人当たりで100人を超える程度の水準となっているものと思われま

す。また、本文の2つ目の○に戻りますが、この間、季節性インフルエンザでは、注意喚起の基準として、いわゆる注意報や警報の取扱いがございましたが、新型コロナウイルスにつきましては、現在国において検討中でありまして、今後、示される予定であると伺っておりますことから、国の動向を注視をしております。

最後に、スライド5をご覧ください。

オミクロン株対応ワクチンの接種についてでございます。ワクチン接種については、一旦、5月7日を以て終了し、その接種状況は、表のとおりですが、VRSベースで約259万人、接種率は50.0%と、本道が広域で医療機能が偏在する中であっても、全国を上回っている状況となったところでございまして、また、このうち、65歳以上につきましても、約128万8千人、接種率は76.9%と、全国を上回る状況となったところでございます。

ワクチン接種につきましては、これまで、市町村や医師会を始めとする関係団体の皆様などにご理解、ご協力いただきまして、多くの道民の皆様の接種につなげることができたところでございまして、改めて、感謝申し上げます。

最後になります。今月8日から順次、接種が開始されております高齢者や基礎疾患のある方など、重症化リスクの高い方等を対象といたしました令和5年春開始接種の状況についてです。札幌市や旭川市をはじめ、道内の半数以上の市町村が既に接種を開始しておりますほか、他の市町村でも、早期の接種開始に向けまして、その準備が進められているところでございまして、道といたしましても、引き続き、必要な支援に努めてまいります。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

続いて札幌市の今後における注意喚起等について、オブザーバーで出席いただいております、札幌市保健所の山口所長から、発言をお願いします。

【山口札幌市保健所長】

札幌市の山口でございます。新型コロナウイルス感染症は定点把握に移行し、札幌市では本日時点で市内の53の医療機関にご協力をいただいているところです。定点把握の移行後におきましても、医療提供体制の状況の確認のほか、下水道サーベランスも活用し、引き続き新型コロナウイルスの発生動向を把握し、必要に応じて市民への注意喚起等を行うなど、札幌市といたしましては、北海と足並みを揃えながら情報提供を行ってまいりたいと考えております。引き続きよろしくお願ひいたします。以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

他に各部振興局等からご発言ございませんでしょうか。
なければ本部長からお願いいたします。

【本部長（鈴木知事）】

5月8日の5類移行から、本日で10日が経過いたしました。現時点では大きな混乱は生じていないということではありますが、引き続き、外来対応へのご協力や円滑な入院調整の実施など、医療提供体制における5類移行への対応が着実に進むよう、丁寧に働きかけをしていただくようお願いをいたします。

道では、これまで3年3か月の長きにわたり、新型コロナウイルス感染症にご対応いただいた多くの関係団体や事業者の方々に、感謝の意をお伝えをしているところでございます。近く、私自身から医療関係者にお礼を申し上げる場も設けたいと思います。

また、本日、5類移行後、最初となります、患者発生動向を公表いたしました。これまでの全数把握から定点把握に変更となったわけではありますが、国の専門家からは、概ね、これまでと同様の動向が得られると指摘をされており、北海道の状況も同様の傾向が見られるところであります。全道の先週一週間の定点当たり患者数は、4.36人となっております。参考としてお示しをした前4週の状況と比較いたしますと、ゴールデンウィークの期間中であった前週よりも増加し、4月中旬から下旬にかけての水準に近い状況となっております。各本部員においては、こうした状況も踏まえながら、引き続き、全道、そして、それぞれの地域における医療提供体制の状況を丁寧に把握するようお願いをいたします。

最後に、ワクチン接種についてであります。これまでのオミクロン株対応ワクチンの接種は5月7日で終了となりました。道内の接種率は全国平均を上回る50%となり、65歳以上の方々についても、全国を上回ったところであります。これまでの市町村の皆様や関係団体の方々のご尽力に対しまして、感謝を申し上げます。

そして、5月8日からは、高齢者の方々などを対象とした春開始接種が始まりました。道内においても、札幌市、旭川市をはじめ、半数以上の市町村で接種がスタートし、他の市町村においても、順次接種が始まっていくこととなります。市町村における接種が円滑に進むように、道として、引き続き支援をするようお願いをいたします。私から以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、本部員は必要な対応をお願いいたします。
以上をもって、北海道感染症対策連絡本部の第2回本部会議を終了いたします。

(了)